

口腔機能低下症の診断と管理

～日頃の診療に役立つ検査・オーラルフレイル対策研修会～

日時：2023年11月19日(日) 9:30～13:30

会場：(公社)日本歯科先端技術研究所 事務局

講師：古屋 純一 昭和大学歯学部 口腔健康管理学講座 口腔機能管理学部門 主任教授
(旧・高齢者歯科学講座)

参加者：先着 15名

高齢者歯科を専門として、外来と訪問で補綴歯科治療を含めた口腔機能管理を担当しているが、医療・介護における多職種協働の一環として口腔機能の問題に対応する機会が増えているというのが昨今の実感である。

口から食べる機能、すなわち咀嚼・嚥下機能は、歯・義歯などの口腔環境、舌・口唇などの個別の口腔機能の統合的な機能である。咀嚼・嚥下機能は、高齢者で低下しやすく、さらに、疾患、廃用、老化などの様々な要因によって修飾され、複雑な様相を呈することも少なくない。その結果、高齢者では「食事」に関する問題が口腔の問題として表面化するのである。

食事は、栄養摂取という面ではもちろんだが、日常生活における楽しみとしても重要な意味を有している。そのため、食事の形態や多様性を担保する口腔機能の低下は、生命や生活に直結する問題である。その点からは、今後の地域包括ケアにおける歯科の役割は、外来・訪問を問わず、高齢者の口腔機能を適切に管理することと言える。

近年、ささいな口腔機能低下から始まるオーラルフレイルが、全身のフレイルや要介護のリスクとなりうるということが明らかとなっている。高齢者の摂食嚥下障害の最大の対応策は要介護にならないことである。そのため、外来と訪問がつながっていることを強く意識し、歯科外来に通えるうちに口腔機能低下症を診断し、早期発見と早期対応による口腔機能管理を適切に行うことが、将来への「口腔の貯金」として重要なのである。

2018年に口腔機能を管理するための口腔機能低下症という病名が公的保険に導入されて、5年が経過した。本講演では、口腔機能低下症の検査・診断・管理について、初習者でも理解しやすいよう、検査機器や手技のデモンストレーションを交えながら、わかりやすく解説したい。



古屋 純一先生

略歴

1996年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
2000年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科高齢者歯科学修了(歯学博士)
2005年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座 助手
2008年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座 講師
2010年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座有床義歯補綴学分野 准教授
2013年 Harvard School of Dental Medicine Visiting Associate Professor
2014年 岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座 准教授
2015年 東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野 教授
2020年 昭和大学歯学部高齢者歯科学講座 講師
2021年 昭和大学歯学部 高齢者歯科学講座 准教授
2023年 昭和大学歯学部 口腔健康管理学講座 主任教授

スケジュール

9:30～11:00 口腔機能低下症の診断と管理
11:10～11:40 実習デモ
11:40～13:00 相互実習
13:00～13:30 質疑応答・まとめ

参加費：会員・スタッフ 無料
非会員 5,000円

お問い合わせ先

(公社)日本歯科先端技術研究所事務局

〒105-0014 東京都港区芝1-8-25 芝TKビル4F

TEL:03-5476-2004 FAX:03-5476-2006

E-mail: nissenken@dental.email.ne.jp

<https://www.nissenken.org>

(公社)日本歯科先端技術研究所 口腔機能低下症 講習会 参加申込方法

下記必要事項をご記入の上、QRコードまたは日先研ホームページより申し込みをお願いします。

(<https://www.nissenken.org>)



必要記入
事項

① 氏名 ② 氏名カタカナ ③ 所属医療機関、診療科 ④ 所属医療機関 住所 ⑤ e-mail ⑥ 連絡先電話番号 ⑦ 日先研会員か非会員か